

ひだか



～家畜の衛生と防疫～

第114号 令和4年(2022年)3月

日高家畜衛生防疫推進協議会

北海道日高家畜保健衛生所

TEL:0146-42-1333 FAX:0146-42-0542

ホームページ <https://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ds/khe/>

令和4年繁殖シーズン馬鼻肺炎発生状況

馬鼻肺炎による流産・生後直死は、4町11戸18頭発生(令和4年3月28日現在)

馬鼻肺炎は妊娠後期の流産の他に、生後1～3日で死亡する虚弱馬が出生する場合があります(生後直死)。

馬鼻肺炎等の感染症による異常産の場合、胎子や羊水に大量の病原体が含まれているため、異常産や虚弱馬が生まれた場合には、速やかに流産(分娩)場所、胎子、母馬を消毒し、獣医師の指示を受け、胎子及び胎盤をビニール袋などで密閉し、当所に搬入してください。

本病発生時には、当所は臨床獣医師と連携して発生農場で疫学調査等を行い、継続発生の予防対策を実施しますので、ご協力よろしくお願ひします。

発生月	発生頭数					
	R2シーズン		R3シーズン		R4シーズン	
9月			1			
10月	2					
11月	1		1		1	
12月	2		3		3	
1月	4		3		2	
2月	2		4		4	
3月	3		2		8	
4月	2		2			
5月	2					
総発生数 (内継続発生数)	戸数 13 (3)	頭数 18 (8)	戸数 13 (2)	頭数 16 (5)	戸数 11 (5)	頭数 18 (12)

生まれる子馬を守るために

- ★妊娠馬にストレスを与えない飼養管理 → 群の入れ替えや移動を控える！
- ★ワクチン接種の励行 → 適切な時期に接種！
- ★隔離飼育 → 「妊娠馬」と「あがり馬や育成馬」を分けて管理し、伝播を阻止！
- ★馬鼻肺炎ウイルスに効果のある消毒薬の使用

逆性石けん(商品名:パコマ、クリアキル 等)
塩素系消毒薬(商品名:クレンテ、アンテックビルコン S 等)
アルカリ剤(消石灰 等)

サルモネラ症発生状況

近年、管内では軽種馬や牛でサルモネラ症が散発しています(令和3年次:軽種馬4戸、牛4戸、令和4年次:牛1戸)。馬では流産や当歳馬の死亡、下痢、発熱、牛では哺乳牛の死亡、下痢、発熱、乳量激減等が認められ、多くの搾乳牛が一斉に発症した事例もありました。

サルモネラ症は「家畜の食中毒」ともいえ、衛生的な飼料や水、飼槽水槽の清掃消毒、糞尿の適正処理が予防の原則です。

カラス等の野生動物が菌を持ち込む可能性もあるので、侵入防止対策等により飼槽水槽を汚染させない対策が重要です。また、これからの温暖な時期には、牧場内の泥濘化防止や飼槽水槽の清潔維持について一層の注意が必要です。

大切な動物を守るため、適正な飼養衛生管理、異常の早期発見と隔離、早期受診を！

国内における CSF、HPAI の発生状況および対策

高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)

令和3年度(2021年度)は、家きんで11県17事例(約109万羽)、野鳥で7道府県59事例発生し、日高管内においても、野鳥で3事例(えりも町:オジロワシ(1)、ハシブトガラス(2))発生しました。

農場に近い野鳥(カラス)で発生していることから、野生動物対策(防鳥ネット設置や鶏舎の隙間を塞ぐ等)の他、衛生管理区域や家きん舎に出入りする人・物等の消毒が重要です。発生予防・まん延防止のため、飼養衛生管理基準の遵守と異常家きん発見時の早期通報が必要です。

豚熱(CSF)

平成30年(2018年)9月から本年3月までに、16県77事例発生しています(防疫措置対象:147農場、5と畜場、約28万頭)。

これまでの発生事例では、人や車両の消毒、あるいは豚舎や堆肥舎の野生動物対策が不十分であったこと等により、野生イノシシ由来のウイルスが飼養豚に感染した可能性が指摘されています。豚熱をはじめ、豚病防疫のため、飼養衛生管理基準の遵守・徹底が必要です。

★令和4年3月24日付けで、島根県、広島県、山口県が豚熱の予防的ワクチン接種推奨地域に加わりました(39都府県)。

農場の飼養衛生管理マニュアルを整備し、定期的に自己点検をしましょう！

生乳畜肉への抗菌性物質等の残留防止について

令和3年度の日高管内における生乳への抗菌性物質残留事故発生件数は1件で、発生原因は治療牛の誤搾乳によるものでした。発生農場に対して、治療牛の隔離、マーキング、従業員間の情報伝達・共有等について指導を実施しました。

●全道及び日高管内における過去5年間の抗菌性物質等の残留事例発生状況

(全道:令和3年12月現在、日高管内:令和4年3月28日現在)

年度		H29	H30	R1	R2	R3
生乳 (件数)	全道	66	61	55	50	35
	日高	1	0	1	2	1
廃棄乳量 (トン)	全道	833.8	635.5	687.8	543.7	370.7
畜産物 (件数)	全道	7	5	6	3	1
	日高	0	0	0	0	0

また、道内では、使用規制医薬品が投与された乳廃用牛が出荷禁止期間内にと畜され、その畜肉が流通する事案が確認されました。

当該畜産物は事業者により自主廃棄されましたが、安全・安心な畜産物の生産・流通のためには、使用規制医薬品の適正使用の徹底、さらに、と畜前に出荷禁止期間中でないことを確認するため、と畜検査申請時に投薬歴が確実に申告されることが重要です。

診療獣医師、家畜飼養者、家畜の出荷に携わる者、これらに該当する方はご留意ください。

家畜伝染病予防第5条に基づく牛ヨーネ病検査計画

来年度は、日高町(門別地区)で実施しますので、関係機関、団体の皆様はご協力をお願いします。

期間:令和4年(2022年)9月~12月(予定)

対象:乳用牛、肉用牛(ともに24カ月齢以上で搾乳、繁殖の用に供する雌牛)

年度	町名(地区)
令和2年度	新ひだか町
令和3年度	平取町
令和4年度	日高町(門別地区)
令和5年度	日高町(日高地区)・浦河町・様似町・えりも町、管内全域の種雄牛
令和6年度	新冠町

管内および道内における監視伝染病の発生状況

家畜伝染病（法定伝染病）		令和4年（2022年）※3月末現在			令和3年（2021年）				
病名	家畜の種類	日高			日高			北海道	
		戸数	頭羽群数	発生場所	戸数	頭羽群数	発生場所	戸数	頭羽群数
ヨーネ病	牛	12	42	新冠町、浦河町、えりも町、新ひだか町	22	158	新冠町、浦河町、えりも町、新ひだか町、樺似町	208	845
ヨーネ病	山羊							2	24
腐蛆病	蜜蜂								
高病原性鳥インフルエンザ	鶏								
高病原性鳥インフルエンザ(疑似患者)	あひる							1	637
届出伝染病		令和4年（2022年）※3月末現在			令和3年（2021年）				
病名	家畜の種類	日高			日高			北海道	
		戸数	頭羽群数	発生場所	戸数	頭羽群数	発生場所	戸数	頭羽群数
牛ウイルス性下痢	牛				1	2	新冠町	53	144
牛ウイルス性下痢（疑症）	牛							4	4
牛伝染性リンパ腫	牛	7	7	日高町、平取町、新冠町、新ひだか町	35	46	日高町、平取町、新冠町、えりも町、新ひだか町	286	725
牛伝染性リンパ腫（疑症）	牛				1	1	新ひだか町	4	4
牛丘疹性口炎	牛							2	8
破傷風	牛				1	1	新ひだか町	8	8
	馬							1	1
破傷風（疑症）	牛							1	1
牛伝染性鼻気管炎	牛							4	17
サルモネラ症	牛	1	1	新ひだか町	4	10	日高町	45	199
	豚							2	2
サルモネラ症（疑症）	牛							1	2
カンピロバクター症	牛								
ネオスポラ症	牛							3	4
ネオスポラ症（疑症）	牛							1	1
馬鼻肺炎	馬	異常産8 死亡1	異常産14 死亡1	日高町、新冠町、浦河町、新ひだか町	異常産13	異常産15	日高町、新冠町、浦河町、樺似町、新ひだか町	14	18
馬バラチフス	馬							1	3
豚丹毒	豚				1	66	新冠町（と畜場発生66頭、生産農場は管内23頭、管外43頭）	6	132
伝染性気管支炎	鶏							1	5
鶏マイコプラズマ病	鶏								
パロア病	蜂							22	332
チョーク病	蜂							18	61

令和4年度日高家畜保健衛生所体制

